

コピ・セレブレーション2017

光画文化研究所 開設 10 周年記念フォーラム

copi:
culture
of
photography
institute

光は未来に届く
視て知る、祝祭の日

copi CELEBRATION 2017

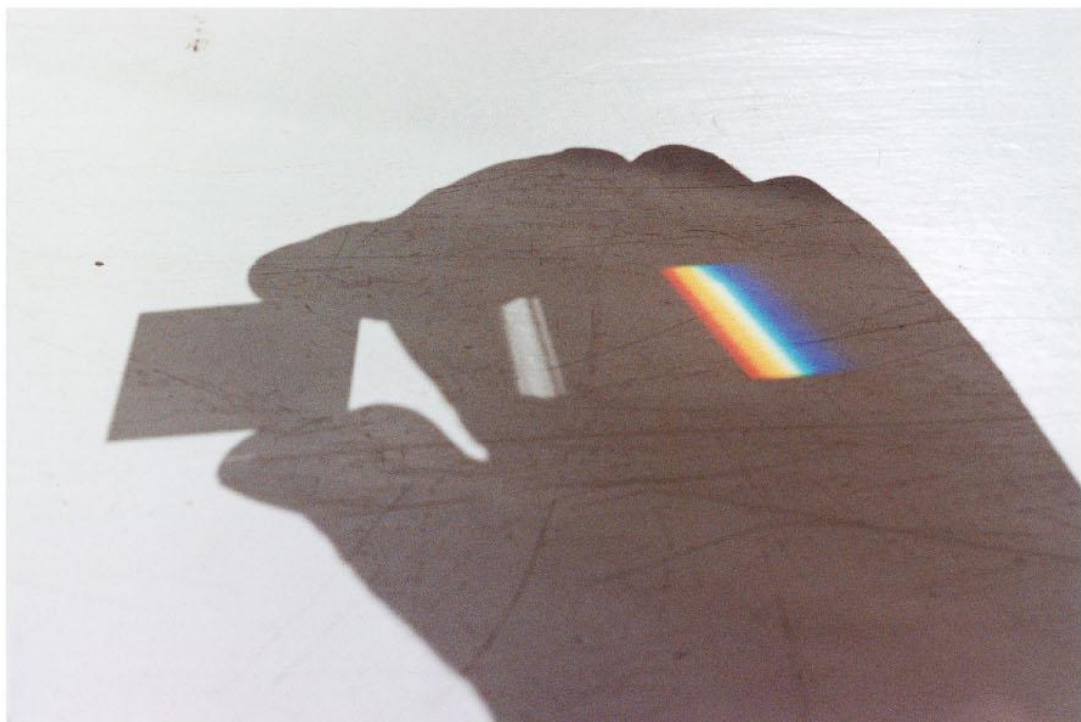


photo by Noguchi Rika

「手と虹」2010年、C-Print、46 x 69 cm



photo by Ishikawa Ryuichi

From Ami de france 2017年

日時：7月7日 金 6:30PM-9:45PM
[開場 6:00PM~] 先着 100 名様

会場：那覇市若狭公民館 ホール

那覇市若狭 2 丁目 12-1 那覇市立若狭図書館 3 階

☎098-917-3446 (専用駐車場はありません)

カクテルプラザ (那覇市松山 1-34-3) 駐車場がおすすめ!!

入場
無料

●但し、資料代として 500 円をご用意下さい。
(児童・学生には資料を無償で配布します。)

講師：石川竜一・野口里佳・勇崎哲史

●プログラム詳細は裏面をご覧ください。

お問い合わせ先：copi 光画文化研究所

☎090-1644-4650 Email: copi.info@gmail.com

〒900-0031 那覇市若狭 3 丁目 4-7

copi 光は未来に届く
CELEBRATION
2017 視て知る、祝祭の日



photo by Noguchi Rika

「人と鳥 #3」2010年、C-Print、80 x 120 cm

講師プロフィール

石川竜一 ● ISHIKAWA Ryuichi

1984年 宜野湾市生まれ。2006年 沖縄国際大学科社会文化学科卒業。2015年第40回 木村伊兵衛写真賞、日本写真協会新人賞、第49回 沖縄タイムス芸術選奨奨励賞受賞。主な著書に、2014年『絶景のポリフォニー』赤々舎、『okinawan portraits 2010~2012』赤々舎。2015年『adrenamix』赤々舎。2016年『Camp』Slant、『okinawan portraits 2012-2016』赤々舎など。主な個展には、2010年『脳みそポートレート』、『眠』、2014年『RYUICHI ISHIKAWA』以降、『絶景のポリフォニー』銀座ニコソナロン、『okinawan portraits 2010-2012』Place M 東京、『zkop』アツコバレー 東京、2015年『A Grand Polyphony』Galerie Nord パリ、2016年『考えたときには、もう目の前にはない 石川竜一展』横浜市民ギャラリーあざみ野、『Camp』Wag Gallery 東京、tomari 沖縄、『Camp & Okinawa』Have a nice GALLERY 台北、『okinawan portraits 2012-2016』エブサイト 東京などがある。

野口里佳 ● NOGUCHI Rika

1971年 さいたま市生まれ。94年 日本大学芸術学部写真学科卒業。1995年第5回 写真ひとつば展グランプリ、1996年 写真新世紀年間グランプリ、2002年第52回 芸術選奨文部大臣新人賞、2014年第30回 東川賞国内作家賞を受賞。主な著書に 2001年『鳥を見る』P3 art and environment、『MIMOCA'S EYE VOL.1 野口里佳展 (予感)』丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2004年『この星』原美術館 / アイコンギャラリー、2005年『In-between13 野口里佳 チェコ、キプロス』EU-ジャパンフェスト日本委員会、2008年『砂漠で』マッチアンドカンパニー、2009年『光』国立新美術館、『太陽』IZU PHOTO MUSEUM、2012年『光は未来に届く』IZU PHOTO MUSEUM、2016年『夜の星へ』IZU PHOTO MUSEUM など。国立近代美術館(東京)、国立国際美術館(大阪)、グッゲンハイム美術館(ニューヨーク)、ポンビドゥセンター(パリ)などに作品が収蔵されている。



photo by Noguchi Rika 「潜る人 #1」1995年、ゼラチンシルバープリント、99 x 243 cm

勇崎哲史 ● YUZAKI Tetsushi

1949年 北海道札幌市に生まれる。写真学校在学中から卒業後の1971-73年、沖縄県のほぼ全域を放浪。1973年 帰郷。1984年 北海道東川町に『写真の町構想』を提案。以後21年間にわたり、日本で最初の国際写真フェスティバルと国際写真賞のプロデューサー、プランナー、キュレーターとして、その立案と制作実施に携わる。1993年『写真甲子園』を考案し、翌94年より制作実施。2007年 那覇市に移住。次世代の写真家や写真愛好家の育成、写真文化活動のための光画文化研究所を開設。沖縄での主な個展：1989年『オー・ヌ・スマ』アートスペース那覇市。1998-99年『光の絵日記：沖縄・宮古・八重山 1971-73年、そして1990年代』那覇市民ギャラリー-平良市総合体育館。2009年『1989』oMacギャラリー-那覇市。主な著作：写真集『大神島・記憶の家族』平凡社、沖国大ブックレット『思考方法としての写真』沖縄国際大学、写真甲子園10年記念PDF版『写真甲子園への道』写真甲子園実行委員会などがある。

① 6:30-7:05pm

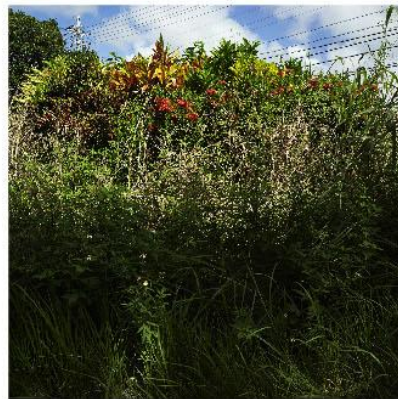
光は未来に届く 沖縄の光・ドイツの波動

講師：勇崎哲史 [写真家/プランナー]

今回のフォーラムタイトル並びにこの演題は、野口里佳さんの同名の写真展並びに写真集(2012年刊・第30回 写真の町東川賞国内作家賞受賞)からいただいたものです。この基調レクチャーでは、今年4~5月に沖縄県立博物館・美術館に於いて開催された『写真家が見つめた沖縄 1972-2017』展への感慨から沖縄の写真の未来を考察すると共に現在最も先端を走るドイツの写真家たちの動向とその歴史的背景を探ります。



photo by Ishikawa Ryuichi



左: From home work, 2017年 右: From grass, 2016年

② 7:10-8:10pm

新しい世界に向かって

講師：野口里佳 [写真家]

私にとって写真は新しい世界に連れて行ってくれる乗り物のようなものです。写真のために海に潜ったり、山に登ったり、あまり得意だとは思えないことに挑戦し大変な思いをすることもあります。そのために私の人生は豊かになっていると思います。昨年10月に、12年間暮らしたドイツ、ベルリンから沖縄に引っ越ししてきました。この新しい環境の中から写真を通してどんな新しい世界にたどりつくことができるのか、どんな作品をつくることができるのか、楽しみにしています。

③ 8:20-9:00pm

写真生活

講師：石川竜一 [写真家]

初めての写真集を出版してから3年が経ちました。それまで街を彷徨っていただけの生活も、仕事として沢山の方々と関わる機会を得て、最近では少しだけ社会的になってきたのかなと思っています。以前のように自由に朝まで出歩くことは減ってしまいましたが、以前よりも関わる人は増え、移動の距離は長くなり、世界の広さを感じています。そのようななかで、写真を通してどんな生活をしているのか、最近の写真をご覧いただきながら紹介していきたいと思っています。

④ 9:15-9:45pm

円卓ゆんたく Q&A 光の未来を語ろう

来場者からの質問をもとに 全員と講師たちとの車座形式で進行